

著者 會員 工學士 武 田 良 一

上記標題の小著に就て討議を寄せられたる石田氏の御厚意を深謝致しますと共に、お尋ねの點及び其の他に對し卑見を述べたいと考へます。

(1) 先づ浮船架設法採用の如何に就て賛意を得ましたことを感謝致します。我國の如き四圍海を繞らし沿岸到る所利用し得べき相當の潮差を有する國に於て本方法の行はるべくして餘り行はれなかつた重なる理由は、架設時に於ける天候及潮位の變化の豫測に對する不安に起因するのではないかと考へます。兩者共に現在に於ては、一般的に或る一定場所一定時刻に於けるそれ等を數學的精確さに於て豫知することは淺學なる著者の知る限りに於て殆んど不可能ではないかと考へますが、實用的には深く其の場所に親み天候及び潮位の變化に對する特異性に細心の注意を怠らないならば決して難事ではないと思ひます。併しながら萬一を考慮し最悪の場合に處する對策を豫めたとおくことは決して忘れてはならぬ點であります。前者に對しては、構桁送出し中の天候の激變に備へてカグラサン豫備 1 臺及びオイル・ジャッキを用ひ引き戻すことを考へ、曳行中に於ては沖浦側山裏に避難せしむる方針でありました。前後 4 回の施工を通じて 1 度も天候に對する危険はなく、豫測潮位の些少の誤差に對しては楔を用ひて充分目的を達しました。

(2) 御討議の (4) に對しましては拙著結語 (C) にサンドル使用理由を竭して居りますが、著者の筆の拙き爲充分に説明の至らなかつたことを遺憾に思ひます。サンドルの安定の問題に就ては勿論天候靜穩の日に施工すべきことを前提として居ります。施工の結果に依りますに高さ約 8 m 迄は餘 2 丁留となし充分安全であります。構桁扛上の爲ジャッキ使用に對してはサンドル内部中空なる爲却つて好都合でありました。費用の點に就ては本架設箇所は縣下有數の木材の集散地であること及び架設時日の異るにつれ干満潮位に變化あり其の都度高さの調節を爲すに當り組枠よりもこの點が安易であり且つ組枠の構造に依つては安定の上に關係し彼我相關聯しての問題であります。

(3) 第 1 法を採用致しますのは現場の狀況を基として比較の結果決定した次第であります。本箇所は兩岸土地狭少にして空地なく材料置場なども已むなく河中を埋立て、造つた様な譯であります。風裏と水裏とが一致し埋立地の前面は比較的淺淺なるに依り、なるべく淺濶區域を少なからしむる爲、縦送りの方法を採つたのであります。第 1 法の缺點として筆者は 5 項を擧げて居られますが第 1 項に就いては (1) に申し述べました。他の 4 項は總べて現場の狀況に依り決定さるべきで一律に缺點とは言へないと考へます。(5)、(6) に對しても同様であります。寧ろ本法は水位差なき架設箇所に適用して其の本領を發揮すべきものと言ひ得るのであります。

以上簡單ながら御討議に對する御答と致します。